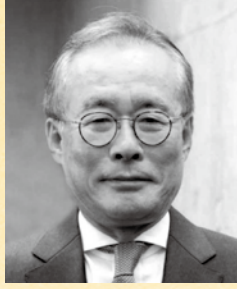




門脇 英晴

日本総合研究所
特別顧問・シニアフェロー



アフリカで活躍する日本人の姿に、素直に感動

2011年3月6日より12日まで、経済同友会のアフリカミッションに参加して東アフリカの3カ国、エチオピア、ケニア、タンザニアを訪問しました。この3カ国はアフリカ諸国の中では、比較的資源が乏しく人口の多い最貧国に属しますが、その国造りの実情を目の当たりにすることができ、極めて印象深い旅でした。現在これらの国は、資源価格が下落しアフリカ経済に逆風が吹く中でも、高い成長を維持し注目を集めています。

ご承知の通りアフリカは中国の急速な進出が有名ですが、日本も長年にわたり援助を続けており、最近ではやっと安定した政権の下、その活動に活力や方向性が出てきたように思えます。日本の援助は主に貧困の撲滅、保健医療、人材づくり、インフラ整備ですが、現地で出会った国際協力機構（JICA）職員や青年海外協力隊員、そして民間企業の方々の困難な環境の中での活躍と献身ぶりには、誠に感銘を受けました。



現地で活躍する青年海外協力隊員らと共に



タンザニアの農家を訪ねて

上の写真は、ミッション参加メンバーがエチオピアの首都アディスアベバ郊外のレストランでの昼食後、JICA職員や青年海外協力隊員らと共に撮影したものです。縫製工場のカイゼン運動を指導するJICA職員、また青年海外協力隊の中には、マイクロファイナンスの普及を試行する女性隊員や、学校教育に理科の実験を取り入れて、見学に訪れた当時のメレス首相を感激させた隊員もいます。皆さんの明るい笑顔が印象的です。住友化学はタンザニアで殺虫剤を浸透させた蚊帳をオリセットネットの商標で製造販売し、蚊の媒介する伝染病の撲滅を目指す事業に取り組んでいます。下の写真は、その蚊帳を使っている農家を見学した時のものです。現地の女性が蚊帳の効果をうれしそうに説明してくれました。

このように多くの日本人の活躍に支えられて、日本の援助活動はその実績により、現地で高い評価を受け、日本のプレゼンス向上に多大な貢献を果たしています。

このミッション最後の日、2011年3月11日現地時間午前9時46分に発生した東日本大震災をタンザニアのダルエスサラームで知らされました。一同暗澹たる^{あんたん}気持ちを抱え帰路に就いたことが、今でも忘れられません。

最後に、この8月27～28日には日本政府主催による第6回アフリカ開発会議（TICAD VI）が初めてアフリカのケニアで開催されますが、その成功を切に期待するものであります（注：執筆時未開催）。